

I 今年度の研究推進

研究主題

夢中になって学ぶ子どもの育成

～教科の見方・考え方を働かせながら、学びの連続性を生み出す指導の工夫～

<研究のはじめに>

今年度の指導委員会では、「夢中になって学ぶ子ども」の育成を目指し、昨年度の課題をふまえ、その具現化に向けた授業のあり方について検討しました。

まず、夢中になって学ぶ子どもの姿を具体的にイメージするところから始めました。

<昨年度の課題から>

- 学びの連続性を意識した単元構成
- 子どもの学びの姿がわかる客観的な調査
- 振り返りの時間の確保
- ICTの有効活用 など

夢中になって学ぶ姿 ～ 目指す子どものイメージ ～

学びの連続性の中で、具体的な子どもの言葉で表現することにより、具体的なイメージが広がる。

① 関心・意欲，課題意識（目的意識）

→ 熱中する・試行錯誤する・学びを楽しむ・気づく
*関心・意欲・思考（自分の考え）の芽生え

今日の学習内容は〇〇だ 〇〇ができるようになりたいな！
これができるようになると、〇〇の力がついて〇〇の役に立つんだな。

学びたい！やってみよう！考えを表現したい！

やりがいがありそうだな。

おもしろそうだな。

解決したい！取り組んでみたい！

おもしろい！

不思議だと思ってたんだよ。

これまでとは違った形の問題だな

どのようにすると解決できるんだろう

おかしいな、もう一回やってみよう

（無言⇌内言，独り言の連続）

④ 振り返り →

冷静に自分の姿を見つめ直す。客観的に。
そして、主体的に学びの意欲が持続
自分事として捉える。

今日学習したことは〇〇。今度使ってみよう！どんなときに使えるかな？

次はどんな学習をするのかな。

もっと〇〇について知りたいな。

自主学习でもっと詳しく調べてみようかな。

〇〇の場面で使ってみよう。

あのときのことは、こういうことだったんだ！学習して分かった！よかった！

③ 話し合い・学び合い（協働の学び） →

友だちや教師に伝えたい。

聞いて！

こうするといいんじゃない？

どうやったの？

どうやるの？

だってね・・・

そういう考えもあるんだ。

友だちの考えを聞くっていいな。

ちょっとこれ見て、聞いて。

② 見通し → 自分の学習の姿をイメージする。

この前学習した〇〇が使えるそうだな。

〇〇が分かれば解決できそうだな。

〇〇は〇〇で調べられそうだな。

この学びの姿を持続させる（学びの連続性）には、どうしたらよいか？
授業改善の視点はどうすべきか？

「各教科の見方・考え方を働かせる」

深い学びの実現へ向けて、教科等の見方・考え方を育み働かせて学習することは不可欠であり、大前提。

常にどの段階においても意識していかなければならないもの。

「自分事として捉える」

見たことがある、でもなぜだろう・知りたい・やってみよう・調べてみたい・どうしてだろう・解決してみたい等、子どもの心がゆれ動き、学びに向かうこと。

「学びの連続性」

①関心・意欲，課題意識 ②見通し ③話し合い・学び合い（協働の学び）④振り返り，それぞれの場面において常に自分事として学びに向き合い，学びが持続している姿。まさに，どの段階でも夢中になって学ぶ子どもの姿が見られること。

そして，その姿は，一単位時間にとどまらず，単元を通してスパイラルに持続していく。

さらに，学びが持続するには，一人一人の学びがそれぞれに自分事として捉えられなければその実現は難しい。そこに，目の前の子どもたちの実態把握，個別最適化な指導の在り方の工夫も必要になってくると考える。

「振り返り」

一単位時間の終末の「振り返り」が次時につながり，次時の課題意識・目的意識に発展する。

その具現化のため，研究の視点を大きく2点に絞ることにしました。

視点I【見方・考え方を働かせながら学びを自分事として捉える指導の工夫】

- 例えば・・・ 学びを自分事として捉える課題の設定など
- 例えば・・・ 学びが持続する学習活動，発問，場の設定，学びの流れが可視化できる板書など

視点II【学びの連続性につながる振り返り】

- 例えば・・・ 振り返りの視点を与える。
- ワークシートを使用し，振り返りを継続，可視化する。
- 時間と場を確保する。 など